

令和 6 年度 第 1 回こんな長崎どがんです会（令和 6 年 10 月 26 日）

テーマ:高校生と語る 未来大国 ～みんなで大きな夢を描こう～

参加者:5 人（県内の高校生）

主な意見	対応状況
（授業以外の学びの環境づくり） ・学校の授業だけでは学ぶことができない内容を企業の方や先進的に取組んでいる人から話を聞くことができるような機会をいろんな学校で広めていく取組が大事。 ・私は起業の仕方をアントレプレナーシップゼミに参加して知ることが出来たが、学校でも聞くことができる機会があると良い。 ・生徒数が少ない離島などでも外部の方から話を聞ける機会が得られるよう、遠隔配信のネットワークを活用することができないだろうかと感じた。	・現在、アントレプレナーシップゼミや長崎大学との協働探究などにおいて、学校を超えて参加できる講演や交流の機会づくりに取り組んでいるところ です。 今後もこうした取組を進めるとともに、事業に参加している生徒以外もオンラインで聴講できるように案内をしたり、例えば、将来の目標について考えるきっかけとなるキャリア講演会を企画したりしていきたいと考えています。
（イノベーション分野へのチャレンジ） ・私は「ドローンプログラミングチャレンジ」に参加した経験があるが、こうしたプログラミングやITにチャレンジできるコンテンツや講習会があれば、中高生がもっとイノベーション分野に関心を持つようになると思う。 ・プログラミング、ドローンなど新しい分野は知識がないと面白さも分からない。小学生の段階からゲーム感覚で始めるようなことを教育にも取り入れていけたら良いと思う。 ・学校が違って県内の高校生が連携し、同じ目標に向かってグループで取り組むような機会があると良い。	・現在、ドローンやIoT など、社会で活用されている先端技術について、産学官で連携を図りながら学ぶことができる体制づくりに取り組んでいるところ です。 また、ドローンやプログラミングなど新しい分野にチャレンジできる取組については、様々な学校から参加することができ、グループで取り組めるような機会の創出を検討していきたいと考えています。
（多くの人に伝わる情報発信のアイデア） ・五島には息抜きできる場所やおいしいものを味わえる素敵な場所がたくさんあるのに、ネットで紹介されていないことがある。例えば、「長崎県観光」と調べたらそういったスポットの一覧がトップページに出るようなサイトができたなら良いと思う。 ・写真を撮ってマップに掲載するような、高校生でも動かせるアプリが結構あると聞くので、そういったことをやってみたい高校生たちがマップを作って、長崎県と一緒に情報発信することができないかと思う。	・若者や地元の意見も参考にさせていただきながら、伝えたい方に対して、しっかりと本県の魅力が伝わるような、情報発信に取り組んでいきます。